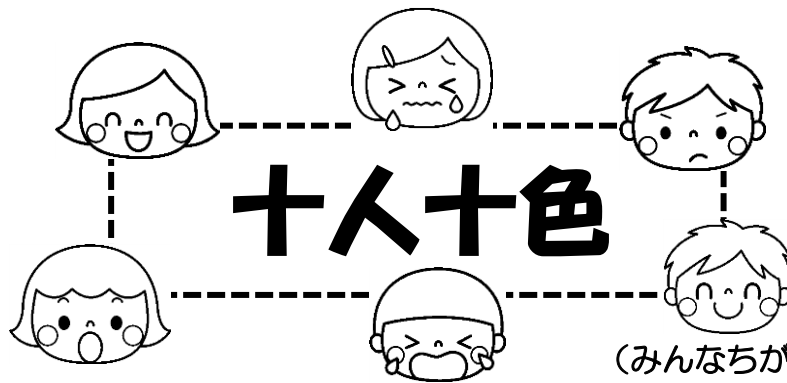


# 4月



## 十人十色

2019, 4, 26

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO1

(みんなちがってみんないい!)

### \*育ち合う

新年度が始まり、1ヵ月が経ちます。子ども達も新しい生活にだいぶ慣れてきたようで、自分の遊びを見つけて楽しんでいます。今年度からひまわり組が2つに分かれて生活をしています。流れとしては、外で遊ぶときはみんな一緒に、ご飯の時間、帰りの会の時間に分かれています。最初は少し心配もあったのですが、子ども達は結構なれるのも早く、それぞれのクラスの雰囲気を楽しんでいるようです。

5組が3組のお世話をする姿をよく見かけるようになりました。着替えの時に着替え入れのボックスの中から、洋服を選んであげています。「これがいい?」「これじゃあないの?」「今日は暑いから短いのにする?」など声をかけ、相手の気持ちを聞きながらお世話をしています。3組のお友達も嬉しそうに、お姉ちゃんのいうことを聞いています。保育士が間に入らなくても、出来るんだなあ。とうれしく思うことでした。最近は兄弟の数も少なく、昔みたいにガキ大将に引っ張られながら遊ぶといった経験がなくなってきました。優しくしたい気持ちはあっても経験がないので、どうやったらいいのが戸惑う子どもも多いです。異年齢クラスにするのもこういった経験をさせるためです。5組のにとっては、自由すぎる3組のお世話をするのにも「忍耐」がいる時もあります。なかなかいうことを聞いてくれなかったり、時には自分の大事にしているものを欲しがって駄々をこねて困らせたり・・・本当に嫌になり、助けを求めてくるときもあります。でも、この経験が大事なんだと思います。うまい具合に折り合いをつけていくすべを身に付けていきます。

3組にとっても、「憧れの先輩」「優しい先輩」です。遊びに入ると5組の後をついて走り回ります。同じことをやりたがります。意欲が出てきます。

こんな姿を見ていると、大人はじっと見守った方がいいのではないかと手出し、口出しは無用なのではないか?と思います。子ども達は自分で育つ力を持っています。時には、危ない!と思うこともありますが子どもを信じて、忍耐強く見守ります。ただ、子どもが助けを求めた時は「待っててね。後でね」は言わず対応するように心がけています。

2組が包丁を持って、うさぎのえさの野菜切りをしているのを見て、保育園にきたお客様が驚いていました。「嬉しそうに毎日していますよ」と話すと本当にびっくりされています。4、5組のすることをよく見ていて、真似を楽しんでいます。

泥団子も一緒です。5組の作るきれいな球体の団子がうらやましくてうらやましくて・・・「作ってあげようか?」の一言で目を輝かせてついていきました。こんな風に、遊ぶ風景が園庭のあちらこちらで見られるようになってきました。子ども同士のつながりも深まってきました。

### 保育士の関わり方

4～5歳児くらいになると基本的には保育者は遊びに入っていないか、仲間同士で遊べるように見守っています。決して遊びに入行ってはいけないというわけではありませんが、入る時には必ず意図的にはいるようにしています。但し、遊びに入る時は自分も子どもに戻って、子どもと同じ気持ちで遊ぶようにしています。また、できなくて泣いても、すぐに駆け寄る保育士はいません。できない自分に怒りを感じ、1人で泣く姿は尊く美しく、そこに大人の入る隙間はこれっぽっちもないし、入り込んではいけないところ。

この時間がまた子どもを大きくする時間なんです。

川和保育園 園長 寺田信太郎

社協3園の保育士の関わり方も同じです。

## 険あそび体験（2月23日（土）を終えて

縄瀬保育園の冒険あそび体験にたくさんご御参加いただきまして、本当にありがとうございました。毎日の子ども達の様子を、担任のおたより（ドキュメンテーションと言います）を掲示板に張り出したり、登降園時の様子を見ていただき子ども達の保育の様子を感じていただいていたのではないのでしょうか？しかし、まだまだ、お伝えできていない所もありましたので、この機会に、保育参観（参加）をしていただきたいと思います、冒険あそび体験を計画しました。

有難いことに、前日の冷たい雨とは打って変わって、晴天にも恵まれ、暖かな1日でした。30分ほど、今の保育形態について説明をさせていただき、20年、30年先、未来の日本を背負って立つ子ども達に、どんな大人になってほしいか？今、何が足りないかなどをお話しさせていただきました。皆さんとても真剣に、聞いてくださいました。

子ども達は、お父さん、お母さんと一緒！という嬉しさはあったものの、日頃の自分たちの姿を見せてくれました。ニワトリが卵を産めば、卵取りに行き、米を洗う時間が来れば、米を洗い、ご飯を炊く。



コマを回したり、大工さん遊び、じゃぶじゃぶ池での水遊び。上がりたくなれば、お風呂に入ってきれいにしてもらったり……。これが今の縄瀬保育園の保育です。小学生もたくさん来てくれました。

一緒にマシュマロを焼いて食べたり、するめが出ると「ピールがほしいね！」なんて冗談を言いながら……

親子で触れ合う姿もたくさん見ることができ、ほほえましい光景でした。また、保護者の皆さんからもたくさんのご感想を頂きました。

「毎日、こんな風に楽しく過ごしているんですね。」



「本当に、お風呂に入るんだ！」「気持ちがいいですね。久しぶりにアウトドアを楽しめた。」そして、特に多かったのが

「小学生のお兄ちゃんが、夢中になって木工遊びをしていました。今まで経験したことがなくて、すごく楽しいって言っていました。」とか、半日、木工遊びから離れなかった息子さんを見て「こんなに集中する姿は見たことがない！」と話をしてくださいました。とてもうれしかったです。少しでも私たちが日々、試行錯誤しながら行っている保育をご理解していただけたのではないかなあと 생각합니다。



お昼の焼き鳥はお母さんたちが焼いてくださいました。都城の郷土料理であるかねしゅいの材料の野菜は親子で切りました。

大重ゆうひくんのお父さんにはコマ回し台を作ってもらいました。（毎日台の上で、こま回し大会が行われています。）

「今度は、ばあばも一緒に連れてこようかな！」とうれしい事を言ってくださる方もいました。

職員の振り返りの中でも、嬉しい報告が上がって来ていますので、職員一同、士気も高まり、やる気になってきています。

子ども主体の保育ってなんだろう？子どもを信じて待つってどういうことなのか？生きる力をつけさせるにはどんな経験が必要なのだろう？などいろいろなことを考えながら子ども達と向き合っていきたいと思いました。